

令和元年度 公共事業評価委員会 議事録(要旨)

日 時：令和元年11月5日(火) 13:00～15:00

場 所：徳島県庁 10F 特別大会議室

出席委員：山中会長、高源委員、近藤委員、千崎委員、滑川委員

【再評価番号1 一般国道438号 宮平バイパス】

(近藤委員)

今回、説明した道路は住民の生活や観光、企業の誘致に必要な道路と考えているが、工期が伸びるとそれだけ効果の発現が遅くなる。予算や個別の用地取得に時間を要したり、それ以外に近年の災害の問題といったように、予定通りに進めていくのは難しいと思うが、計画的に全体の事業が運べないのか。

(道路整備課)

道路事業については、計画的に、できるだけ早期に事業効果を発現させることが非常に重要だと認識しており、整備に向けて取り組んでいる。しかし、用地取得などの理由で、工期が伸びてしまう場合がある。今後とも、しっかりと取り組み、出来るだけ早期に効果発現するように取り組んで参りたい。

(滑川委員)

四国の山の道路では線形不良で幅員狭小な道路が多いが、ショートカットをするトンネルができるのか。

(道路整備課)

本バイパスでは、幅員狭小で山道ということで、蛇行するところは安全な通行を確保するために、トンネルで山を抜くバイパス計画にしている。

(滑川委員)

トンネルの着手が止まっている。これは地元住民のためのトンネルよりも、通過交通のためのトンネルか。

(道路整備課)

当然、観光地への通過交通もあるが、地元住民にとっても、防災面など何かがあった際に通行ができるものである。

(滑川委員)

では、なぜ止まるのか。

(道路整備課)

トンネル整備時に大量の土砂が出るので、残土処理場を構える必要がある。その残土処理場に向けての道路整備やその用地取得について、町にも協力して頂きながら進めているところである。また、トンネルについても、大規模な構造物のため着手時期、予算、他工区の状況等を勘案しながら、改めてご説明をさせて頂きたい。

(滑川委員)

全体意見として、10年経過して事業が進むことで、便利になったと実感する。そのことを、どのように地元理解を求めていくのかを考える必要がある。今だと社会的割引率を考えれば、 B/C が1.0を多少下回っても、こうした隘路を減らす積み重ねでしか徳島は変わらないと思う。もし、 B/C が1.0になったときに、 C （コスト）を下げるために、安易にトンネルを中止して、機能を下げような選択をしないで頂きたい。 B/C が1.0に近い、あるいは1.0を下回る時には、設計や施工の段階で、技術提案により C （コスト）を落とすなど、規模だけで決めるのではなく、1.0を下回っても整備していく必要がある。今だと、社会的割引率を含めて総合的な判断を行うなど、可能な限り自由度を上げて、提案を含めて C （コスト）を下げる努力の中でさらに純便益を上げるフェーズのつながりをこれからの時代は、意識して頂きたい。

トンネルの C （コスト）が高いからと言って、簡単に機能を落とさないでほしい。ただし、 B/C を安易に下げて良い訳でもない。

(道路整備課)

貴重な意見を頂きましたので、こうした意見を踏まえながら、関係機関や関係課と連携しながら、進めて参りたい。

(山中会長)

トンネルは特に、実際の工事費の変動が大きいので、リスクが大きく、どうやって発注していくかが重要になっていく。

【事後評価番号1 徳島空港線中喜来～長岸】

(近藤委員)

経済効果などについて、事前に予測していた事よりも多くの良い点が出てきていると思われるが、逆に見込んでいたが効果が出ていない点などマイナス面はあるか。

(道路整備課)

今回評価を行った結果、マイナス面はないと考えている。新聞にも掲載されたが、道路完成後企業の進出もあり、事業の効果があつたと考えている。今後の事後評価においては、当初の見込みとの比較なども検討して参りたい。

【事後評価番号5 南部健康運動公園】

(近藤委員)

工期が伸びると、それだけ効果の発現が遅くなる。予算や、個別の用地取得に時間を要したり、それ以外に近年の災害の問題といったように、予定通りに進めていくのは難しいと思うが、計画的に運べないものか。

(都市計画課)

公園事業について陸上競技場の整備に取り組んでいるが、予算の確保、現場も輻輳することから、調整し、できるだけ早く現場が仕上がるように頑張っている。

(山中会長)

南部公園の、グラフが真横になっているのは、設計期間ってことか。予算が伸びない時期が2年ほどあるっていう設定になっているのか。用地はあるのか。

(都市計画課)

現場の整備状況や各種団体からの要望について、着手時期を若干調整しているところ。陸上競技場ができてから、各種団体との調整がどうしても必要になってくる。順番にひとつずつ完成させている。陸上競技場が完成したら、その後、各種団体との調整が必要になってくる。

(高源委員)

その公園事業の中での残り、アーチェリー場とアウトドアフィールドが残っているが、アウトドアフィールドというのはどういうものか。

(都市計画課)

アウトドアフィールドについては、公園の外周、園路等を整備して園内のフィールドを散策して親しんでいただくイメージである。

(千崎委員)

野球場とかができたことによって、県内の他の球場の使用率っていうのは減ったりしているのか。

(都市計画課)

インディゴソックスや高校、中学の大会など、利用者ごとに住み分けが出来ていると思う。

(山中会長)

全部、公園で作っているわけではないのか、他の場所は違っている。野球場は所管が違うのだろう。阿南にもあるし、小松島にも作られている。

(都市計画課)

今のところ、県営球場や市営球場とか、各団体に住み分けて対応している状況である。

【事後評価番号4 住吉万代園瀬橋線】

(山中会長)

万代の橋梁区間の場所って、とりあえず、ここは置いてあるって感じでいいのか。ここも、用地交渉しているのか。

(都市計画課)

現在、陸域部の所から順次進めている。

(山中会長)

ここは置いておいて、いく必要が来た時に、橋へ広げていくってのは戦略的にやると。

(都市計画課)

そうである。

(山中会長)

この前のトンネルも橋梁も、もう少し様子を見ながら、ということか。これは陸域が繋がらないと橋梁作っても仕方がないということか。

【再評価番号7 総合流域防災事業 岩谷川】

(滑川委員)

将来的な話をすると、コンクリート構造物をするのは維持費がかかって来るので、河床を掘った方がいいのでは。

コストパフォーマンス的にも掘削の方が効果でると思うが。

(河川整備課)

昨年の7月豪雨を受けて、国が策定した「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」を活用し、これにより従来交付金事業で認められていなかった、樹木伐採や河道掘削が実施できるようになり積極的に進めているところである。

(滑川委員)

すごくB/Cがでると思う。

このような維持的なことをしなければいけないと言うことは、この2年間ではっきりわかったと思う。

【事後評価番号2 総合流域防災事業 奥潟川】

質疑無し

【再評価番号21 浅川港海岸】

(近藤委員)

フラップゲート式陸閘について、逃げ遅れて閉じ込められそうになったとき、人がどのように動くと計画されているのか伺いたい。

(運輸政策課)

逃げ遅れた方がいる場合でも、横に階段・ステップをもうけている。

(近藤委員)

いざという時のためにも、利用しやすいように、目立たせるとか、何か周知をしていただきたい。

(山中会長)

平面図21-7で、防潮堤について嵩上げの黄色が少しずつ残っている。それ全部が、残事業費で、数年で出来るってそういう理解で良いのか。

嵩上げについては、基礎をいじらなくても、上へ足すだけか。

(運輸政策課)

黄色着色箇所については、今後L1高さまで上げる。若干残っているところがあるが、避難時間確保の高さでほとんど出来ているので、後は嵩上げ部分。水門の整備が残っている。

嵩上げについては、上に足すだけである。

(滑川委員)

県全体としてL1への対応っていうのは、どのくらいまでに終わらせる計画か。

(運輸政策課)

徳島県海岸保全基本計画で、県内136海岸のうち避難時間を確保するために整備が必要であるのは39海岸としている。平成26年に、39海岸については、今後20年から30年の間で事業着手するとしており、いつまでに整備するとの目標としては打ち出していない。

(県土整備部)

県内の海岸数が多くて距離も長いということで、ハードのみでは限界があり、時間も要するため、ソフトと併せて実施する。

(山中会長)

今後、公共工事を整備される方の情報戦略として、整備したことでどれだけ守れた

かということと、L1対応なのか、避難時間の確保なのかなど、今の整備状況を伝えていく必要がある。

(運輸政策課)

どのような形で、今やっているかを伝えていくことは非常に大切と考える。整備状況をお知らせしながら進めていきたい。

とにかく、地震発生後には避難が重要である。

(山中会長)

情報発信に関することで、安全確保についての地元とのコミュニケーションをしっかり続けていただきたい。あまり誤解を与えずに、どういうことを目指しているかということをきちんと説明しながら進めていただきたい。

附帯意見について、私の方で検討させていただくが、個々の事業ではなく、防災事業全体に対しての附帯意見となる。

【砂防関係事業全般】

(滑川委員)

砂防事業は、B/Cがほぼ満足することから、たくさんある保全すべき箇所には事業を拡げるために、事業評価が3年に1度ということを手にとり、停滞している箇所は見直し、事業展開を速めることができないか。

(砂防防災課)

砂防事業の事業評価は、3年に1度としており、停滞している箇所については、見直していく方針としている。ソフト対策で行った調査結果をハード対策の箇所選定に用い、ハード対策を更に推進するとともに、ソフト対策とあわせて土砂災害対策を進めて参る。

(山中会長)

県の砂防事業について、1箇所当たりの事業費が小さくなっているように思う。大規模な事業は国が実施しているのかもしれないが、国との役割分担はどうなっているのか。

(砂防防災課)

砂防事業は基本的に県が実施している。技術力、事業規模等により県で対応できないところについては、国で対応していただいている。

(山中会長)

砂防事業の事業評価は、箇所ごとに事業を実施すれば、災害はほぼ起きないという結果になると思う。砂防事業を実施した箇所と実施しなかった箇所では災害発生率が違

うという結果はあるのか。

(砂防防災課)

砂防事業の場合、発生した土石流が砂防堰堤でくい止められたというものがあれば、事業効果が目に見えて分かると思う。

(山中会長)

箇所ごとには、そういう事例だとよく分かるが、多数ある危険箇所を統計的にみたとき、事業を実施した箇所で、災害が発生したところほどのくらいあるのか。

(砂防防災課)

そのような統計的な整理はできていない。

(山中会長)

今は、砂防事業を実施すると災害が起きないように説明になっているので、事業を実施すると災害発生率がどのくらい低減できるかという情報も出していく必要があると思う。

(砂防防災課)

統計的な事業効果についても検討したい。

【意見集約・まとめ】

(山中会長)

県土整備部関係の21件について、「継続」でよいか。

(各委員)

異議なし。